

4. 大町商店街

大町商店街は通過交通を極力排除した歩行者中心のショッピングモールとして整備する。その際、イベント等、空間活用（ソフト）との連動をしっかりと進め、寂しい商店街にならないように留意する。商店街やNPO、行政、商工会議所が連携し、社会実験で車線通行止めを行いながら先行的な活動を試み、空間活用を根付かせていくことで、歩行者中心の商店街づくりを行っていく。

(1) 歩道整備

大がかりな整備を行う前に、既存車線の一部にフラワーポットやパラソル、ワゴンなどを配置し、大館らしい歩行者空間演出を模索する社会実験の場とする。その後、空間活用が根付いた段階で歩道の拡幅や街路樹の整備等を行うことを検討する。検討には学生や高齢者、商店街の店舗業者など様々な立場の方を集めたワークショップ形式で設計を行うことが考えられる。

(2) アーケード整備

アーケードは天候に左右されずに買い物ができるという利点があるものの、店舗内に自然光が入らないなどの欠点もある。再整備をする場合は、採光や美観を考慮したデザインとし、地元の材料（例：秋田杉）の使用を検討する。

(3) 建築物

建て替えを進める場合は、隣接する建物と壁面線の位置を合わせ、商店街の連続性を保つように留意する。また、高層の建物を建築する場合は、4階以上の壁面をセットバックするなど、街並みに圧迫感を与えないような計画を行う。

また、旧来からの商店街の雰囲気演出している看板建築は、外壁等の補修を行い、商店街の財産として維持していくことが考えられる。

(4) 循環バスの停留所

バスベイ（バス専用の停車スペース）を整備し、スムーズな車の流れや、乗客の安全性を確保する。

(5) 駐車帯

地区外からの来訪者用の駐車スペースとして、車道上に駐車帯を設ける。

図 Ⅲ-4-1 大町商店街の街並み整備イメージ



